

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2010～2012

課題番号：22240081

研究課題名（和文） 近現代の日本における医療の構造変化と歴史の重層

研究課題名（英文） Medicine in Modern Japan: Its Structural Transformation and Historical Layer

研究代表者

鈴木 晃仁（SUZUKI AKIHITO）

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：80296730

研究成果の概要（和文）：疾病・病者・医者 of the three agents が会して構成される「医療」という動的な場は、どのような歴史的な構造を持つのか。疾病環境の変化、人々の病気行動の変化、そして医療者の科学と技術の変化の三つの相からなる医療の構造変化は、近現代の日本の変化とどのような関係があり、世界の中の変化とどう関連したのか。これらの問いが、急性感染症、スティグマ化された疾患、帝国医療の主題の中でとらえられた。

研究成果の概要（英文）：The dynamic field of medicine constituted by the three agents of disease, sick person, and doctor has its historical structure. The modernization of Japan and the globe in the modern year affected the three-phased structural transformation of the shift in the epidemiological environment, changes in people's sick action, and the development of medical science and technologies. This research has examined these question of the total history of medicine in modern Japan, particularly emphasizing the epidemiological transition and the decline of acute infectious diseases, socio-cultural history of people with stigmatized diseases, and the export of modern medical science and technologies to the Japanese Empire.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	11,500,000	3,450,000	14,950,000
2011年度	9,800,000	2,940,000	12,740,000
2012年度	9,500,000	2,850,000	12,350,000
年度			
年度			
総計	30,800,000	9,240,000	40,040,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史、科学社会学・科学技術史

キーワード：医学史

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 新しい医学史と、歴史と医学の対話のための概念枠組み：1970年代から主としてヨーロッパ・アメリカで発展した新しい医学史研

究は、かつての狭く定義された「学問としての医学」に関心を集中させた医学史から、広い意味での「実践としての医療」の歴史へと関心を広げた。この視点を得た医学史は、現

代社会が直面する医療をめぐる議論の背景を提供する学問領域となった。このような関心の拡大と、より深く問題を掘り下げる作業の中で、実践としての医療を構成するいくつかの構造的な要素が明らかになり、それらの要素を理解するべき多様な文脈も明らかにされた。(Bynum and Porter, 1992; Cooter and Pickstone, 2000) この海外の動向に直接・間接に影響されると同時に、国内におけるさまざまな医療の問題にも触発されて、日本を対象とした医学史においても、人文社会系の学者がこの領域に参入し、本格的なリサーチと洗練された概念装置に基づいた優れた学術書・論文が数多く出版されるようになり、それまでこの領域における主たる研究者であった医学系の学者たちに刺激を与え始めている。(藤野, 1993; Johnston, 1995)

日本における新しい医学史は、主として歴史学の視点から問題を設定し、それに答えることを通じて優れた成果を上げてきた。その成果と洗練された問題意識を、現代にも通じる医療の基本構造の文脈におくことで、医療と歴史学・人文社会科学が創造的な対話をする概念枠組みを作り出し、それに肉付けすることがこの研究の目標である。

#### (2) 病気・医者・患者の歴史的变化モデル

その概念枠組みの中心は、「ヒポクラテスの三角形」と呼ばれる、病気・医者(治療者)・患者の三つの要素が医療のコアを形成するという発想である。歴史を通じて現代に至るまで、「患者が病気にかかって、医者がそれを治す」という三つの要素からなる構造は、医療の本質として変わらない。(Rosenberg, 1992) この三要素が複合して起きる医療という現象の歴史的な変化には、一つの原動力があるわけではなく、環境・科学・政治・経済・文化など、社会の中のさまざまな領域が、多様な経路を通して医療の三つの構成要素に独立に働きかけて変化させ、その変化を被ったそれぞれの要素が別の要素に影響を与え、医療という場を構成し、さらに、その変化をこうむった要素がループを描いて社会を変化させるという、多元的・多関係的な構図となる。この多元性・多関係性のゆえに、たとえば明治維新や第二次世界大戦後の改革などの体制の変化に端を発する鋭角的な変化は、ゆるやかにしか変化しない部分(たとえば疾病構造や、既存の医者の教育内容とエトス、患者の受療行動など)や、医療の中の古い構造(たとえば開業医制度、罪に対する罰としての疾病観など)などと並存しながら、医療という複合体を形成した。

#### 2. 研究の目的

この研究は、近現代の日本の医療を、病気・医者・患者の三つの枢要な要素の複合体ととらえ、それぞれが作り出す(1) 身体環境の

歴史、(2) 専門職の行動の内実と文脈の歴史、(3) 文化=社会的な行動としての病気経験と受療の歴史の三者が複合したものとして医療の歴史をとらえる。そのうえで、三者が相互に影響を与えながら、それらの要素の内実と要素間の関係がどのように変化したのかというダイナミズムを明らかにする。さらに、そのダイナミズムにおける、鋭角的な改革・ゆるやかな変化・古くからある特徴の復興や再強調が、どのような歴史の重層>となって、日本の医療の全体としての構造が形成されたのかを描き出し、三要素間のフィットとミスフィットを明らかにすることを目標にする。

#### 3. 研究の方法

研究の情報基盤を整備するために、既存の情報資源から基本データを作成して共有し、新たな情報資源を作成して共有する。分担者・連携研究者、海外共同研究者の間の情報交換と、国際的な研究の発信の基盤としてのウェブサイトを立て上げる。国内外でのさまざまな分野の学会に共同でパネル報告などを出し、多様な領域の視野を研究グループ内に取り込み、ウェブサイトでの議論と併行して、国内・国際の研究集会を開いて共有する。

#### 4. 研究成果

この研究の目的は、近代の日本において、疾病と医療者と患者という三つの要素からなる「医療の三角形」が、環境と社会の変化に応じてどのように転換したのかを明らかにすることである。また、その転換において、転換前に存在した三角形の構造がどのように転換後に残存したかということも明らかにして「歴史の重層」を解明することでもある。

個人研究としては、昭和戦前期から戦後にかけての精神医療を素材として、精神病院の症例誌の分析から、患者と家族の側の思惑と医者側の対応の相互作用として、精神病院における滞在と具体的な治療を再検討する考察を論文化し、学会報告では、国家の政策としての優生学が、精神病の家系を含む地域社会においてどのように調査の対象となったかをまとめて発表した。

研究の統括としては、(1) 公衆衛生の形成における疾病の記憶の役割、(2) 予防接種における意思決定の構造、(3) ハンセン病など、強いスティグマを持ち続けた疾病のケアの近代化、(4) 植民地医学を通じた日本型の医学の伝播の主題を中心にして、国際的な報告者を100名超で集めた報告会を組織して、当研究課題の大規模な報告会を組織し、それぞれの主題についての報告・ディスカッションを行ない、その成果をウェブ上に掲載した。平成24年度は、3年におよぶこの研究を総括

する年度であったが、日本における「医療の三角形」と「歴史の重層」という新しい視角・方法論を持つ医学史研究を日本において定着し、その研究成果を国際的に発表し、欧米と東アジアを中心とする国際的な研究者の共同体に定着させることができた。これをさらに発展させることが、今後の目標となる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 31 件)

- ①杉田米行、Japan's epoch-making health-insurance reforms, 1937-1945, Japan Forum, 査読有、25(1)、2013、112-133
- ②永島剛、Britain as a model for Japan's 'modernization'? Japanese views of contemporary British socioeconomic history, Twentieth Century British History, 査読有、Vol. 23 no. 4、2012、555-562
- ③鈴木晃仁、Smallpox and the Epidemiological Heritage of Modern Japan: Towards a Total History, Medical History, 査読有、2011、313-318
- ④橋本明、Folk Therapy for the Mentally Ill in Modern Japan: Its Rise and Fall, Bulletin of The Graduate School of Human Development Aichi Prefectural University, 査読有、2011、23-27

[学会発表] (計 88 件)

- ①永島剛、The triumphant return of Baron Takaki to London in 1906, as a disciple of British epidemiology, The 7th Anglo-Japanese Conference of Historians, 2012年09月13日、Trinity Hall, Cambridge(英国)
- ②廣川和花、From Rural to Urban Communities: Reconsidering the Epidemiology of Hansen's Disease in Modern Japan, British Association for Japanese Studies Conference 2012, 2012年09月07日、University of East Anglia (イギリス)
- ③田中誠二・杉田聡・丸井英二、戦後占領期における天然痘の流行と対策、第113回日本医史学会総会、2012年06月09日、栃木県 獨協医科大学
- ④橋本明、Japanische Psychiater "zwischen" den akademischen Zentren der Psychiatrie der westlichen Hemisphäre. Uchimura Yushi (1897-1980) und seine

- Zeitgenossen, Historische Fachtagung anlässlich des 200-jährigen Jubiläums der psychiatrischen Klinik in Zwiefalten, 2012年06月05日、ZfP, Südwürttemberg Zwiefalten (Germany)
- ⑤鈴木晃仁、Psychiatry of a Population: Transformation of Japanese Psychiatry and Psychiatric Surveys in the 1930s and 40s, Japan at Chicago: Medicine, Politics, and Culture in the Japanese Empire 2012年05月12日、Chicago University(アメリカ)
  - ⑥飯島渉、A Hidden Hygienic Connection between Japan and China: Japanese scientists visiting China in 1957, Japan at Chicago: Medicine, Politics, and Culture in the Japanese Empire, 2012年05月11日、Chicago University(アメリカ)
  - ⑦杉田米行、Reinterpretation of the Significance of Japanese Health Insurance Programs from 1922 to 1950, Asia and Europe in a Global Context, Transcultural Asian History(招待講演)、2011年12月13日、Universität Heidelberg (ドイツ)
  - ⑧鈴木晃仁、Constructing Small Hygienic Spaces within the Global Epidemic: Space, Society and the Individual in the Epidemics of Cholera in Late 19c Tokyo conference Epidemics and Pandemics in Historical Perspectives (招待講演)、2011年10月28日、デュッセルドルフ大学 (ドイツ)
  - ⑨ジュリア・ヨング、Academia-Industry Relations: Interpreting the Role of Nagai Nagayoshi in the Development of New Businesses in the Meiji Period and Beyond, Science, Technology, and Medicine in East Asia: Policy, Practice, and Implications in a Global Context Conference, 2011年10月8日、Ohio State University, Columbus, Ohio (米国)
  - ⑩飯島渉、Toward the History of Cholera Pandemics in 19<sup>th</sup> Century Asia: Between Economic History and Environmental History, 東亜環境史研究討論会、2011年3月13日、上海交通大学人文学院 (中国)
  - ⑪鈴木晃仁、The Market, the State, and the Making of Therapeutics in a Psychiatric Hospital in Tokyo during the Interwar Period, Annual Meeting for Social Science History Association, 2010年11月20日、アメリカ シカゴ
  - ⑫渡部幹夫、日本の結核史における第二次世界大戦とBCG研究について、第111回日本医史学会総会、2010年6月12日、茨城県茨城大学

〔図書〕(計15件)

- ①鈴木晃仁 (Angela McCarthy and Catharine Coleborne), Routledge, “Between Two Psychiatric Regimes: Migration and Psychiatry in Early Twentieth-Century Japan”, in Migration, Ethnicity, and Mental Health: Historical Perspectives, 1840-2010, 2012, 141-151
- ②橋本明、六花出版、精神病者と私宅監置—近代日本精神医療史の基礎的研究、2011、240
- ③鈴木晃仁編、慶應義塾大学出版会、<ゆとり>と生命をめぐる—慶應義塾大学教養教育研究センター・極東証券寄附講座・<生命の教養学> VI、2011、249
- ④廣川和花、大阪大学出版会、近代日本のハンセン病問題と地域社会、2011、332
- ⑤杉田米行編著、大学教育出版、日米の社会保障とその背景、2010、410

〔その他〕

ホームページ等

Akihito Suzuki's Website

<http://user.keio.ac.jp/~aaasuzuki/BDMH/home.htm>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

鈴木 晃仁 (SUZUKI AKIHITO)  
慶應義塾大学・経済学部・教授  
研究者番号: 80296730

### (2) 研究分担者

脇村 孝平 (WAKIMURA KOUHEI)  
大阪市立大学・経済学研究科・教授  
研究者番号: 30230931  
杉田 聡 (SUGITA SATORU)  
大分大学・医学部・教授  
研究者番号: 00222050  
橋本 明 (HASHIMOTO AKIRA)  
愛知県立大学・教育福祉学部・教授  
研究者番号: 40208442  
飯島 渉 (IIJIMA WATARU)  
青山学院大学・文学部・教授  
研究者番号: 70221744  
杉田 米行 (SUGITA YONEYUKI)  
大阪大学・言語文化研究科・准教授  
研究者番号: 00216318  
加藤 茂生 (KATO SHIGEO)  
早稲田大学・人間科学学術院・講師  
研究者番号: 30328653

廣川 和花 (HIROKAWA WAKA)  
大阪大学・適塾記念センター・准教授  
研究者番号: 10513096

### (3) 連携研究者

渡部 幹夫 (WATANABE MIKIO)  
順天堂大学・医療看護学部・教授  
研究者番号: 00138281  
山下 麻衣 (YAMASHITA MAI)  
京都産業大学・経営学部・准教授  
研究者番号: 90387994  
永島 剛 (NAGASHIMA TAKESHI)  
専修大学・経済学部・准教授  
研究者番号: 00407628  
慎 蒼健 (SHIN CHANGON)  
東京理科大学・工学部・准教授  
研究者番号: 50366431  
ヨング ジュリア (YONGUE JULIA)  
法政大学・経済学部・教授  
研究者番号: 90328097  
香西 豊子 (KOZAI TOYOKO)  
東京大学・人文社会系研究科・特任研究員  
研究者番号: 30507819  
逢見 憲一 (OOMI KENICHI)  
国立保健医療科学院・生涯健康研究部・主任研究官  
研究者番号: 70415470  
田中 誠二 (TANAKA SEIJI)  
新潟大学・教育学部・講師  
研究者番号: 60561553